



▲びわの袋かけ作業

1戸の農業者であっても補助の支援をしようとしている。

今後さらに、地域・集落単位で取り組む事業や、それぞれの地域の特性に応じて選択できるような補助メニューの創設など、有効な施策について検討していきたい。

動物行政の現状と今後

問 犬・猫の引き取り状況、昨年の動物愛護法改正に伴う本市の対応状況、獣医師を確保するための環境整備のあり方、本市が目指している動物行政の今後の方向性の4点について伺いたい。

答 昨年度の引き取り状況は、犬が捕獲を含め116頭、猫が2024頭で、犬は、ボランティアの方々の協力により、殺処分ゼロを達成できた。また、法改正に伴い飼い主の終生飼養が責務とされたため、引き取りに当たっては、飼い主の事情等を十分に聞き、飼い方

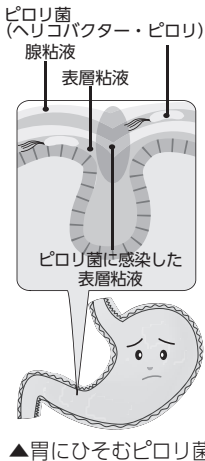
の指導等を行っている。さらに今年度は、飼い主がいらない猫の不妊化手術費用の助成制度を創設した。また、獣医師については確保に努めているが、近年は、採用に至っていない。今後も、獣医師会やボランティア団体と連携・協働して人と動物が共生できる社会の実現に努めたい。

公明党

胃がん撲滅のためのピロリ菌検査の導入

問 厚生労働省が胃がんの発がん因子であると認めるピロリ菌であるが、胃がん撲滅のためのピロリ菌検査の導入に対する本市の見解を伺いたい。

答 ピロリ菌検査は、血液検査や尿検査等で受けられるという簡易性があり、非感染者には、通常年1回の胃がん検診を複数年に延ばしたり、感染者には積極的にがん検診を受けてもらうなど、より効果的な検診につなげることができるとしている。本市の平成24年度の死亡原因の1位はがんであり、胃がんは肺がんに次いで死亡者が多く、早期発見・早期治療につながる効果的ながん検診の実



▲胃にひそむピロリ菌

施が重要となっているため、長崎市医師会や長崎大学に専門的な意見を聞きながら、胃がんリスク検査としてのピロリ菌検査をしっかりと検討していきたい。

※ピロリ菌は、胃の粘膜に生息しているらせん形をした細菌で、主に胃や十二指腸などの病気の原因になります。

新水道ビジョンを受けての本市の取り組み

問 国の「新水道ビジョン」が策定され、官民連携の推進、アセットマネジメントの導入、広域化による連携、逓増型料金制度の検証の必要性が生じている。長崎市上下水道事業マスタープランの見直しと諸施策の検討を進めべきと考えるが、見解を伺いたい。

答 官民連携については、民間活力の導入に積極的に取り組んでいきたい。今年度、厚生労働省の簡易支援ツールを用いたアセットマネジメントを試行し、本格実施に向けた計画策定を行うとともに、上下水道事業の方向性を包括的に示すマスタープランの見直しを行うこととしており、将来の事業収入の実情に即した料金体系の適正化に向けて、現在の逓増型料金体系についても検証していきたいと考えている。また、今後、近隣の水道事業体との発展的な広域化についても研究していきたい。



▲市役所で受信するアマチュア無線

災害時におけるアマチュア無線の活用

問 東日本大震災では、携帯電話等の通信網が途絶した状況で、非常通信としてアマチュア無線が多くの市町村で活用された。長崎市地域防災計画でアマチュア無線の利用による通信手段の確保について定められているが、大規模災害時に機能的に活用できる体制がとられているのか。

答 本市では、日本赤十字社長崎県支部無線奉仕団と「災害非常無線通信の協力に関する協定」を締結し、大規模災害時のアマチュア無線による情報収集体制を構築している。また、非常通信手段として防災行政に活用するため、災害対策本部の組織として確実に機能するよう、無線機の維持管理、非常通信訓練のあり方、災害対策本部との連携など、現在、アマチュア無線の資格